

| 項目 | 確認事項 | 届出内容 |
|---|--|--|
| 基本情報 | 大学等名1(代表大学等) | 津山工業高等専門学校 |
| | 大学等名1(代表大学等)※カナ | ツヤマコウギョウコウトウセンモンガッコウ |
| | 大学等名1(代表大学等)学校所在地 | 中国・四国地方 |
| | 大学等名1(代表大学等)学校種別 | 国立高等専門学校 |
| | 大学等名2(連携大学等) | |
| | 大学等名2(連携大学等)学校所在地 | |
| | 大学等名2(連携大学等)学校種別 | |
| | 科目名 | 学外実習A |
| | 学部・研究科等名 | 機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、情報工学科 |
| | 担当教職員名・役職 | 教務委員会、4年次担任 |
| | 受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数 | 73 |
| | 受入企業等数 | 37 |
| 受入企業等名 | ANAラインメンテナンステクニクス株式会社、JAXA、NTT-ME、NTTフィールドテクノ、エヌイーシール株式会社、サントリーホールディングス株式会社、パナソニック株式会社AIS社メカトロニクス事業部HMIデバイスビジネスユニット、旭化成株式会社、花王株式会社、株式会社JALエンジニアリング、株式会社イクス、株式会社コタニ、株式会社シマノ、株式会社タダノ、株式会社フジワラテクノアート、株式会社マイスターエンジニアリング、株式会社マツダE&T、株式会社メンバーズ、株式会社英田エンジニアリング、株式会社高木製作所、関西電力株式会社、関東電化工業株式会社水島工場、京セラ株式会社、国立研究開発法人物質・材料研究機構、三井造船システム技研株式会社、三菱電機株式会社姫路製作所、出光興産株式会社、曙ブレーキ工業株式会社、大正製薬株式会社岡山工場、大分キャンホン株式会社、大和製罐株式会社大阪工場、筑波大学、中国電力株式会社、中部電力株式会社、東和薬品株式会社、富士ゼロックス岡山株式会社、豊橋技術科学大学 | |
| インターンシップの分類 | 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ | |
| 上記以外のインターンシップの分類(記述欄) | | |
| 要素① | 1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。 | 1.はい |
| | 1-2.該当する就業体験 | 1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等) |
| | 1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄) | |
| 1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄) | 学生に、就業体験を積ませ、高度な知識・技術に触れながら実務能力を向上させるとともに、学校で習得した知識や技術が実社会でどのように活用されているかを理解させ、併せて社会人・技術者としての心構えを学ばせることを目的とする。 | |
| 要素② | 2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。 | 1.はい |
| | 2-2.該当するインターンシップの内容 | 3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している |
| | 2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄) | |
| | 2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄) | 4年次 |
| | 2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄) | 1単位 |
| 2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄) | 夏季休業期間など学業に差し障りのない期間を利用して学外の企業等で実習を行う。実習終了後、実習報告書を提出し、別途定める日程で開催される報告会で実習内容を発表する。事前の指示事項・報告書の作成・プレゼンテーションについては指導教員の指導下で行う。 | |
| 3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。 | 1.はい | |
| | 3-2-1.該当する事前学習の内容 | 1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している |
| | 3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄) | |

| | | |
|--------|--|---|
| 要素③ | 3-2-2.該当する事後学習の内容 | 1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている |
| | 3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄) | |
| | 3-2-3.該当するモニタリング | 3.その他 |
| | 3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄) | インターンシップ実施中の学生面談・企業訪問の実施は行っていないが、指導教員との連絡体制を整備している |
| | 3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄) | 事前に社内規律、社内機密、安全保持、作業態度等について指導している |
| | 3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄) | インターンシップの報告書を提出させるとともに、学科ごとに報告会を実施し各学生に発表させている |
| | 3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄) | インターンシップの申請段階から指導教員が関与し、適宜連絡が取れるようにしている |
| 要素④ | 4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。 | 1.はい |
| | 4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み | 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している |
| | 4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄) | |
| | 4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄) | シラバスにルーブリックを掲載しており、HP上で公開している |
| 要素⑤ | 5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。 | 1.はい |
| | 5-2.該当する実施期間 | 1.連続した5日間以上の実施期間を確保している |
| | 5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄) | 連続5日間程度(実働30時間以上) |
| | 5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄) | |
| | 5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄) | |
| | 5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄) | |
| | 5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄) | 休業期間の内、5日間程度(実働30時間以上) |
| 要素⑥ | 6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。 | 1.はい |
| | 6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容 | 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している |
| | 6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄) | |
| | 6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄) | 本校におけるインターンシップの意義や目的を企業に御理解いただいたうえで、学生の受入を実施していただいている。インターンシップ参加学生の実習の状況を企業等に評価してもらい、本校での成績評価の参考にしている。 |
| | 7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL | https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=32 |
| 問い合わせ先 | 大学等名 | 津山工業高等専門学校 |
| | 担当部署名 | 学生課教務係 |
| | 担当者役職名 | |
| | 担当者氏名 | |
| | 電話番号 | 0868-24-8292 |
| | メールアドレス | kyoumu@tsuyama-ct.ac.jp |